

全国高等学校野球選手権大会100回記念

豊中にはじまる 高校野球の歴史

大正4年(1915)、現在の玉井町にあった豊中グラウンドで、全国高等学校野球選手権大会の前身である全国中等学校優勝野球大会の第1回大会が行われました。今年、記念すべき第100回の開催を迎えるにあたり、高校野球発祥の地である豊中グラウンドの歴史を振り返るとともに、開催に併せて市が行う催しなどを紹介します。(スポーツ振興課)

高校野球発祥の地

豊中グラウンド

大正2年、箕面有馬電気軌道(現在の阪急電鉄)は、梅田―宝塚間に開設していた鉄道の利用客の誘引策の一つとして、豊中グラウンドを建設します。同グラウンドは高さ1メートルほどあるれんが塀で囲まれ、1辺約140メートルの正方形の敷地内には1周400メートルのトラックや当時としては珍しい傾斜をつけた木製の観客席を設置。野球のほかサッカーやラグビー、陸上競技など幅広く使える

日本を代表する総合多目的グラウンドでした。

開設後、さまざまなスポーツ大会に使用される中、同4年8月18日、全国高等学校野球選手権大会(夏の全国高校野球大会)の前身である第1回全国中等学校優勝野球大会が開催。全国の中等学校の代表校を集めて日本一を決める日本初の大会の開催によって、豊中の名前は全国に広まります。翌年の第2回大会では観客が同グラウンドの収容人数を超えてしまったため、第3回からは鳴尾球場(兵庫県西宮市)で開催することに。阪神甲子園球場(西宮市)で行われるようになったのは、同13年の第10回大会からです。

また、現在の高校ラグビーや高校サッカーの前身である第1回日本フットボール優勝大会が同7年に開催されるなど、同グラウンドは高校スポーツ、アマチュアスポーツの発展を支えてきました。その後、同11年に同グラウンドの約1.7倍の広さを持つ宝塚運動場が建設されたことに伴い廃止。跡地は住宅地となりました。



開設当時の豊中グラウンド



第1回全国中等学校優勝野球大会の決勝戦の様子(朝日新聞社提供)

今も残る豊中グラウンド跡

同グラウンドで使われていたれんが塀の一部を大切に利用・保存する家が数軒あります。そのうちの1軒に暮らす小泉清さんに話を聞きました。

この場所が豊中を知ってもらおう
きっかけになれば



小泉清さん(65歳)

という思いが高まりました。

現在、この一帯の住宅街でれんが塀が残るのは数軒だけですが、塀はなくても、敷地内にれんがを保管している人もいます。戦災や震災に遭いながら100年以上も残っているのは、れんがが丈夫で、住宅地の緑になじんだこと、何よりも住民に大切にしたいという気持ちがあったからではないでしょうか。地域で守ってきた価値のある歴史遺産だと思っています。

生まれ育った自宅のれんが塀が、かつてこの地にあった豊中グラウンドのものであったことを知ったのは中学生の頃でした。大入学後にこの家を離れたのですが、親から譲り受けて再び暮らすようになったのが平成8年(1996)。それ以降、豊中グラウンドが新聞やテレビ、雑誌で取り上げられることがあったり、れんが塀を見に来る人がいたりすることで、歴史を刻むこの塀の価値を改めて認識し、大切にしていきたい

昨年、豊中グラウンドがあった場所のすぐ近くに設けられた、高校野球メモリアルパークが再整備されて「高校野球発祥の地記念公園」へと生まれ変わり、地域のシンボルになっていきます。夏の全国高校野球大会の歴代優勝校・準優勝校の校名を第1回大会から列記

した壁などがあるこの記念公園はもちろん、地域に今も残るれんが塀もぜひ併せて見てほしいです。それをきっかけに、まずは市民の皆さんに高校野球が始まった場所であることを知ってもらい、まちへの愛着を深めてもらえれば。そして、甲子園をめざす高校球児ら若者が夢を描く地になればいいなと期待しています。



小泉さんの家は、当時の豊中グラウンドの南側に位置しています

当時の面影を残す
高校野球発祥の地
記念公園



昭和63年(1988)の全国高等学校野球選手権大会第70回大会を記念し、豊中グラウンド跡地北側に高校野球メモリアルパークを整備しました。平成29年には「高校野球発祥の地記念公園」(玉井町)として再整備。同グラウンドにあった門柱を再現したり、平面図を床に設置したりするなど当時の様子を知ることができます。

熱く盛り上げます



「100回つなぐ始球式リレー」がスタート

第100回記念大会の始球式リレーの出発式が、5月30日に高校野球発祥の地記念公園で行われました。第1回大会で優勝した京都府立第二中学校（現在の鳥羽高校）の元野球部員など9人が投じた9個のボールは地方大会を巡り、計99回の始球式で使われ、阪神甲子園球場に集まります。そして10個めのボールで100回めの始球式が行われ、第100回の全国大会が幕開けとなります。



阪急豊中駅や市役所などでも大会を応援



高校野球発祥の地記念公園の最寄り駅・阪急豊中駅の構内の窓やホーム壁面に掲出している、高校野球発祥の地をPRする装飾シートが第100回記念大会の仕様になりました。

また、8月5日(日)から25日(土)まで、市役所と阪急豊中駅・曽根駅で全国高等学校野球選手権大会の大会歌「栄冠は君に輝く」の曲を流します（市役所は平日の12時から、阪急豊中駅・曽根駅は10時から19時まで）。

ふるさと納税の返礼品に第100回記念大会のロゴ入り公式球と記念切手

平成30年度（2018）にふるさと納税制

度を利用して市に寄付をいただいた人への返礼品として、高校野球発祥の地記念グッズを設定しています（下表参照）。第100回記念大会のロゴ入りの公式球は今年度限りで、数量限定。切手シートは、第1回・2回大会の様子や高校野球発祥の地記念公園などがデザインされています。

関財政課 ☎68580・2799



返礼品	内容	寄付金額	
高校野球発祥の地記念ボール（公式球）	公益財団法人日本高等学校野球連盟の公式グッズである「第100回大会記念球」と市オリジナルデザインの専用ケース	3万円以上	4万円以上は いずれも
高校野球発祥の地記念切手	82円切手10枚セットのシート	1万円以上	

第100回記念大会を

催しは全て無料です。



記念企画展示

[日時] 8月5日(日)～25日(土)10時～19時(月曜日を除く)

[場所] 文化芸術センター(曾根東町)

[内容] 全国高等学校野球選手権大会の歴史を振り返る写真パネル

・同大会の第1回全国大会出場全10校や大阪大会歴代優勝全30校のユニホーム(復刻含む)

・大阪大会決勝戦の新聞記事

・大阪大会の優勝旗と歴代優勝校のペナント
このほか、プロ野球選手モデルのバットの製造実演なども行われます。



大阪大会の優勝校である豊中中学(現在の豊中高校)と履正社高校のユニホームも展示



プロ野球選手モデルのバットの製造実演している様子

元プロ野球選手・桑田真澄さんのトークショー

[日時] 8月21日(火)13時30分～15時30分

[場所] アクア文化ホール(曾根東町)

[内容] 元プロ野球選手・桑田真澄さんが全国高等学校野球選手権大会に出場したときのエピソードなどを、タレント・山田雅人さんとの対談で語ります。

[定員] 400人

[申込方法] 住所、名前、電話番号、申込人数(最大4人まで)を記入した往復はがきを、〒561-8501中桜塚3-1-1「豊中市役所スポーツ振興課 桑田真澄トークショー係」へ8月7日(火)までにお送りください(消印有効)。申込人数が定員を超えた場合は抽選の上、結果をお知らせします。



桑田真澄さん

スタンプラリー

[日時] 8月5日(日)～25日(土)

[内容] 阪急豊中駅、甲子園歴史館(兵庫県西宮市)、文化芸術センター(上記の記念企画展示会場)の3カ所にスタンプ台を設置します。各設置場所で配布する台紙に全てのスタンプを集めた人には、参加賞の缶バッジを進呈。抽選で桑田真澄さんのサイン入りボールや記念企画展示会場で製造されたバットなどの景品も当たります。

豊中市・沖縄市 少年野球親善交流試合

[日時] 8月5日(日)13時～

[場所] 豊中ローズ球場(曾根南町)

[内容] 兄弟都市・沖縄市の少年野球チームを招き、豊中市の少年野球選抜チームと交流試合を行います。